

2025.5.12

NPOフォーラム だより No.116



NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄、池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO法人安房文化遺産フォーラム）

<戦後 80 年企画>

◆ 寺崎武男・平和の祈り展 渚の駅たてやまギャラリー

5月17日（土）～6月10日（火） ※5/26 休館

▶ ギャラリートーク 5/18・6/1（日）13:30～14:30

寺崎武男は、明治期にイタリアへ渡り、伝統的な欧州美術の研究をし、日本へ紹介しました。ベネツィア・ビエンナーレで日本人初の受賞し、ローマで開催された日本美術展で通訳兼コーディネーターを務め、海外では高く評価されていますが、日本ではあまり知られていない“幻の国際画家”です。

ヨーロッパで世界大戦を経験し、大正期から館山に別荘をもち、後に暮らした自宅近くに館山海軍航空隊が開かれました。ここでは、空母パイロット養成の離着陸訓練や落下傘部隊の降下訓練がおこなわれました。誰よりも強く平和を願った寺崎は、終戦直前の8月1日に『天照皇大神 永遠の平和』や終戦翌春に『平和来たる春の女神』を描いています。これらは目黒区美術館で開催中の企画展で鑑賞できます。

館山の「平和の祈り展」では、房総開拓神話・キリスト教・仏教などの宗教画とともに「戦後 80 年」を迎える館山の戦争遺跡などを紹介します。



寺崎武男「天守閣（城）桃山時代」<館山に敵入る>



1945.9.3.米占領軍が館山上陸、本土で唯一の「直接軍政」

お城を描いたこの作品は、右下隅に小さく「館山に敵入る 昭和 20 年 9 月 1 日」と書かれています。実際の館山城は、天守閣のない城郭でした。その2日前の8月30日には、アメリカ占領軍の先遣隊 116 名が「館空」へ上陸しています。上半身裸で銃を担いでいたという証言もあり、強奪強姦などの事件も館山警察に立件されています。物々しい状況を目の当たりにし、画家として何かを描かずにいられない衝動があったかもしれません。

よく見ると、左からお濠を越えて城内に侵入する松山の集団がいます。目撃した占領軍を写実として描くわけにいかず、空想画のように描いたのでしょうか。ほぼ見えにくい文字で小さく「敵入る」と書き入れたことに、作家の想いを想像するしかありません。

そして、9月3日には正規の占領軍 3,500 人が上陸し、本土唯一の「直接軍政」が敷かれています。

詳しくは、ギャラリートークをお楽しみに！

<関連美術展のご案内>

遥かなるイタリア

～川村清雄と寺崎武男展

4/19（土）～6/8（日）

目黒区美術館

（東京都目黒区目黒 2-4-36）

※当法人から作品資料を貸出中！



◆ 第 89 回 知恵袋講座

< 知恵袋講座は、NPO メンバーが講師となって、楽しく学び語り合う茶話会です。>

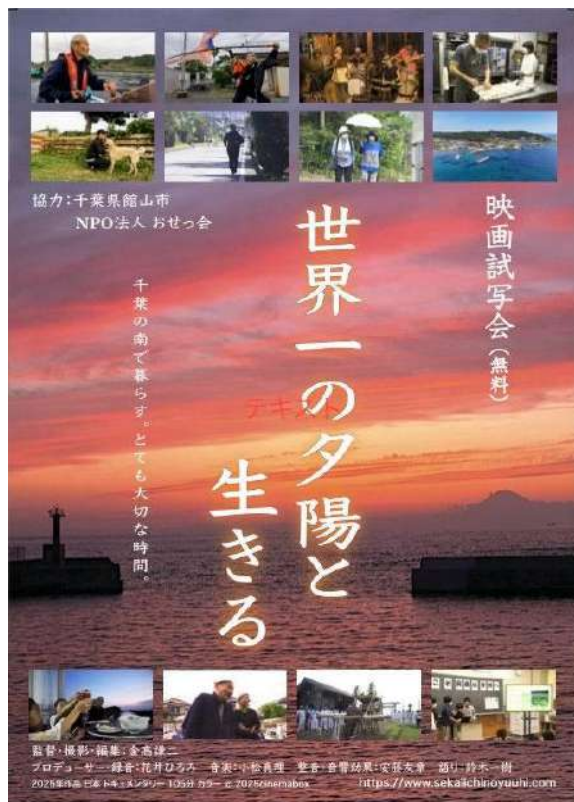
参加費：会員 200 円/非会員 500 円（茶菓子・資料つき）予約不要

5月17日（土）13:30～16:00 菜の花ホール 第1集会室

語り手：関和美さん「安房の文化振興に貢献した医師・原進一」

戦後に安房医師会長でもあった鴨川の医師・原進一は、図書館長も務めるなど、安房の文化活動に貢献しました。画家の横山大観や寺崎武男、彫刻家の長谷川昂らとも親交があったといわれます。近年、遺族から資料提供を受け、調査研究が進みました。

◆ 製作に協力したドキュメンタリー映画が2本完成しました！



館山市布良を舞台に撮影！

映画『世界一の夕陽と生きる』

金高謙二監督は館山海員学校（現在の館山海城技術学校）卒業生。2015年に第21回安房地域母親大会で、映画『疎開した40万冊の図書』上映と監督トークショーを開催したときからのご縁です。詳しくは房日新聞の連載で紹介していただきました。

<試写会>

参加無料・安房地域住民対象

上映105分：受付30分前に整理券配布

6/8（日）10:30/14:30/17:30

南総文化ホール 小ホール（館山市北条・定員300名）

6/28（土）10:30/14:00

館山市立房南小学校 体育館（館山市佐野・定員200名）

出演は、地元の方たちをはじめ、
池田恵美子（NPO法人安房文化遺産フォーラム）
高田宏臣（安房大神宮の森コンプロジェクト）
通称「夕陽の小出」こと小出一彦（NPO会員の写真家）
布良崎神社・青木繁「海の幸」記念館なども登場。



『世界一の夕陽』

撮影現場から ②⑤

戦争の傷跡

映画を作るには、多山海員学校（現国立館くの人たちの協力がな山海上技術学校）の卒く、軍の施設としてくは難しい。特にド業生で、館山で学生時キメタリーは、被代の2年間を過ごした使用されていたと納得した。今回の映画の中る皆（とりで）としるため、下調べ（映画ころには行ったことが作りで、シナハンとなかった。平砂浦にある砂山や沖ノ島の浜で、同級生たちが、弾丸の薬きょうを拾って南房総、館山地域のきて、もらったこと過去、現在、未来はどはあったが、この地のようになっているのに、第2次世界大戦か？ 調べなくてはな中重要な軍の施設があったことは知らなかった。

今から12年前に作った映画「疎開した40万冊の図書」（第2次世活していた学校の建物界大戦中、日比谷図は旧海軍の施設だっ書館の蔵書40万冊を疎た。さらに学校の艇庫開させたドキュメンタがある海岸に米軍が上り映画の上映会を、陸した写真がある。10NPO法人安房文化遺年前、池田さんの案内座フォーラムの池田恵で、館山海軍航空隊赤美子さんが館山市で開山地下壕（ごう）跡をいてくれた。その際、見学した。長さが1・館山の戦争遺跡を案内6ギもあり、一般的な防空壕の長さが10〜20前にも書いたが、私ほどだとすると、はは、館山にある国立館るかに長い。



白間津のお花畑

ないと、池田さんに取ら、第2次世界大戦ま材をお願いした。残念で使用されていたことながら、撮影期間中、るだ。砲台跡や人間魚赤山地下壕跡は修復の雷艇「回天」の基地跡ため取材できなかったが今も残っている。

が、その代わりに大房撮影当日は、大学生たに池田さんが熱心にガイドをされていた。池田さんは言う。「日本地図を逆さにすると、房総半島は日本本の先端になる。ここから太平洋に向かっている重要な場所なんです」その時、戦争の秘話として、花づくり禁止令が出されたにもかかわらず、南房総の花を守った人たちの話を聞いた。南房総は花の街。これは知っていたが、戦争中、花の種や苗を必死になつて守った人たちがいたこととは知らなかった。そのあと、白間津のお花畑に行ってみた。なんと素晴らしい光景。戦争から花を守った話を聞きたいと思った。

【映画監督 金高謙二】
（映画のホームページ）
https://www.sekaiichinoyuhi.com/

* NPO 法人安房文化遺産フォーラムの池田恵美子共同代表が赤山地下壕跡を案内しました。



赤山地下壕跡・かにた婦人の村でも撮影

映画『医の倫理と戦争』

旧日本軍の731部隊（関東軍防疫給水部）は中国で細菌兵器の開発を進め、医療者は人体実験に協力させられました。慰安婦問題しかり、二度と起こらないように、故日野原重明先生が顧問、西山勝夫先生や川嶋みどり先生が世話人をされる「戦争と医の倫理」の検証を進める会が調査をすすめてきました。これらの協力を得て、南房総市の伊藤真美医師（花の谷クリニック院長）の呼びかけにより、山本草介監督、「安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会」が共同製作。

＜上映会＞ 映画上映（77分）＋ 関係者対談

5/18（日）13:30～16:00 要予約 1,000円

連合会館（千代田区神田駿河台・定員 90 名）

6/22（日）14:00～16:00 要予約 無料

千葉市文化センター5F 세미나室（千葉市・定員 140 名）

7/19（土）13:30～16:00 要予約 1,000円

とみうら元気倶楽部さざなみホール（南房総市富浦町・100 名）

戦争と命 そして医の倫理

2023年4月、映画は「安全保障関連法」に反対する医療・介護・福祉関係者の会」の共同代表でもある伊藤真美医師の1本の電話から始まった。「この思いを映画にできないか」。安全保障関連法制定後、沖縄の離島が軍事化され、戦争に備える必要性を無批判に無自覚に受け入れているような「空気」への抵抗感があった。

思いをくんだのが山本草介監督（48）。伊藤医師の勧めで、かつて海軍が使った巨大な「赤山地下壕」（館山市）を取材。戦時中に旧満州などで人体実験や細菌戦をした旧日本陸軍731部隊（関東軍防疫給水部）にも向き合った。

映画の中では、現代の命のあり方にも言及。伊藤医師は緩和ケア病棟に運ばれてくる患者が増えたと感じ、その背景に、医師たちが患者に「がん治療は高い」と説明していることに愕然とした思いを語った。

「旧731部隊の出身者は戦後、その罪を問われることなく、ほとんどが日本の医療界に復帰していた」と山本監督。だが、昨今の医学部卒業生で「731部隊」という言葉を知っていたのはわずか7%、との調査結果も紹介された。

もちろん、医師免許は国家資格で、教育カリキュラムは国が



「先生」と呼ばれる人々ではなく、等身大の生身の人間の言葉だった。緩和ケア病棟を備えた「花の谷クリニック」（千葉県南房総市）の伊藤真美院長（67）らの呼びかけで作られた映画「医の倫理と戦争」のことだ。記者と福祉士の両方の立場から考えさせられた。

決めている。診療報酬も国主導だ。国と医師とのがんじがらめの関係の中で、命を奪う戦争を、命を救う医師がなぜ声を上げないのかと映画は訴える。

社会福祉士や精神保健福祉士も国家資格で国の管理下にある。万が一、戦争状態になれば戦争に加担し、戦争遂行の手足になりかねない。大きな自己矛盾を抱えた上で、私は今のところ、あえて身を投じている。

【MEMO】

戦後、赤山地下壕跡に約40年暮らしたキノコ研究者がいました。壕内は温度や湿度が年間ほぼ一定のため、菌類であるキノコ栽培に適していたようです。

高校教諭だった愛沢伸雄代表は、戦跡を調査していた1990年代にキノコ研究者と出会いました。

彼は赤山地下壕跡の公開前に亡くなりましたが、戦前は農業研究者で、戦時中は731部隊員として防疫に従事していたと、晩年語っています。

今も壕内に残る五右衛門風呂やボイラーは、彼が住んでいた証です。

▼ 参加希望は左記 QR から
各上映会にアクセスし申込む。



<当面のガイドスケジュール>

5/27（火）10:30-16:30 神奈川私鉄労組 23 名＝赤山・座学・大房岬
 5/30（金）10:00-11:00 君津文化協会 15 名＝赤山
 6/1・15（日・県民の日）9:30～12:00 赤山地下壕ガイドサービス
 6/8（日）8:30-16:30 明星大学教育学部 15 名＝座学・大房岬・震洋・掩体壕・赤山・四面石塔
 6/9（月）10:00-15:30 千葉県弁護士会憲法委員会 10 名＝赤山・座学・大房岬
 7/11（金）10:30-15:00 木更津市八幡台公民館 30 名＝座学・赤山・掩体・四面石塔

NPO 会員は、サポートスタッフとしての同行も大歓迎です。事務局へご連絡ください。

YouTube 映画「うんこと死体の復権」 トークショー 高田宏臣さん vs 伊沢正名さん 2025.4.27.



いのちの循環を考えるイベント

昨年来、連携を図っている＜安房大神宮の森コモンプロジェクト＞運営委員会と協働で映画会を開催。県内外の遠方を含み、150 名と大盛況でした。排泄物も遺骸も本来は土に還る循環と考える二人のトークショーは、忘れられていた自然の摂理を考えさせられる深い内容でした。YouTube 動画を視聴できます。

▷ チャンネル「安房文化遺産フォーラム」



インターネットラジオ 美遊空間四国 池田恵美子さんに聞く「館山まると博物館」①



番組がオンエアされました♪



今回の放送は、活動の動機や経緯、ハングル四面石塔、館山ゆかりの画家（青木繁・寺崎武男）などを紹介しました。戦争遺跡は来月配信の予定です。

<おすすめ書籍>



◀ 調査報告書『寺崎武男 生誕 140 年・平和の祈り』 頒価 1,000 円 （2025.4.増補版）

【目次】

- 01- <ごあいさつ> 池田恵美子
- 03- 年譜
- 05- 履歴書
- 06- ファミリーヒストリー：家系図
- 07- <イタリア図書> 寺崎裕則「“幻”の画家 寺崎武男伝」
- 12- <作品調査報告> 尾形純「多彩な支持体を用いた絵画技法と修復」
- 15- <講演レジュメ> 石井元章「日伊交流史における寺崎武男」
- 17- <調査報告> 愛沢伸雄「手帳や書簡から見える寺崎武男の世界」
- 31- 法隆寺の壁画／管主・佐伯定胤上人との交流
- 35- <家族との手紙> 次兄 熊雄／母 セツ／長兄 渡
- 37- <友人との手紙> 呉建／大類伸
- 39- <友人との手紙> 南薫造／平井武雄
- 40- <弔辞> 大類伸「寺崎君の夢」
- 41- <回顧展メッセージ> 三島由紀夫
- 42- はるかなるイタリア／ツアーガイドのご案内
- 43- 戦後 80 年企画 ～ 寺崎武男 平和の祈り展

▷ オンラインショップ「館山まると博物館」

